

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●嶋田純次騎手がJRA通算100勝を達成

10月6日(日)の4回新潟2日・第6レースではシュラフが1着となり、同馬に騎乗した嶋田純次騎手(美浦・手塚貴久厩舎)は、現役93人目となるJRA通算100勝(3108戦目)を達成しました。

●斎藤新騎手がJRA通算200勝を達成

10月6日(日)の4回新潟2日・第9レースとして行われた萬代橋特別ではウィーブデライトが1着となり、同馬に騎乗した斎藤新騎手(栗東・フリー)は、現役57人目となるJRA通算200勝(3276戦目)を達成しました。

●木村哲也調教師がJRA通算400勝を達成

10月6日(日)の4回東京2日・第12レースではボールドゾーンが1着となり、同馬を管理する木村哲也調教師(美浦)は、現役39人目となるJRA通算400勝(延べ2796頭目)を達成しました。

●重賞ウイナー3頭の競走馬登録抹消

2023年ダービー卿チャレンジトロフィー(GⅢ)の勝ち馬インダストリア(牡5歳/美浦・宮田敬介厩舎/JRA通算13戦4勝)、2018年共同通信杯(GⅢ)の勝ち馬オウケンムーン(牡9歳/美浦・岩戸孝樹厩舎/JRA通算23戦3勝)、2022年デイリー杯クイーンC(GⅢ)の勝ち馬プレサージュリフト(牝5歳/美浦・木村哲也厩舎/JRA通算12戦3勝)は、8月23日(金)までに競走馬登録を抹消されました。インダストリアは病気のため死亡しており、オウケンムーンは地方・佐賀競馬に移籍済み。プレサージュリフトは北海道安平町のノーザンファームで繁殖馬となる予定です。

●デルタブルースが死亡

10月8日(火)、デルタブルース(騾23歳)が死亡しました。2004年菊花賞(GⅠ)や2006年の豪・メルボルンC(GⅠ)を制するなどJRA通算30戦5勝・海外2戦1勝の成績を残して引退した同馬は、乗馬として供用された後、公益財団法人ジャパン・スタッドブック・インターナショナル引退名馬繋養展示事業の助成対象馬として岡山県真庭市のオールド・フレンズ・ジャパンにて余生を送っていました。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●東京盃(大井)で3歳馬チカッパが接戦を制して重賞2連勝

東京盃(JpnⅡ、10月3日、大井、1200m)は、中団の内から直線で外目に持ち出した4番人気のチカッパ(横山典弘騎手、牡3歳、父リアルスティール)が残り100mで先頭に立つと、内で食い下がるマックス(大井)を半馬身差で退けました。3番人気のシャマルが3着に入り、2番人気のクロジシジョーは5着、1番人気のイグナイター(兵庫)は6着、ヘリオスは9着、エートラックスは12着でした。

●武豊騎手がゴールデンジョッキーC(園田)を連覇

9月19日に園田で全国から通算2000勝以上の騎手を集め、3レースのポイント制で争われたゴールデンジョッキーCは、武豊騎手(栗東)が6、2、1着という成績で前年に続いて優勝。岩田康誠騎手(栗東)は第5位、戸崎圭太騎手(美浦)は第7位でした。

●ヤングジョッキーズシリーズトライアルラウンドの結果

2024ヤングジョッキーズシリーズトライアルラウンド高知は9月23日に実施され、第1戦は鷲頭虎太騎手(栗東)、第2戦は新庄海誠騎手(兵庫)が優勝。トライアルラウンド佐賀は9月26日に行われ、第1戦は大畑慧悟騎手(愛知)、第2戦は河原田菜々騎手(栗東)が勝利。10月8日のトライアルラウンド川崎は、第1戦を大江原比呂騎手(美浦)、第2戦を阿岸潤一朗騎手(北海道)が制しています。

●10月14日の南部杯(盛岡)に昨年大差勝ちのレモンポップが登場

南部杯(JpnⅠ、10月14日、盛岡、1600m)は、レモンポップが中心、以下ペプチドナイル、タガノビューティー、ダイシンピスケス、キタノリュウオー、キタノヴィジョンの順に有力視されます。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●GⅠ凱旋門賞～ブルーストッキングが優勝

現地10月6日にフランスのパリロンシャン競馬場で行われたGⅠ凱旋門賞(3歳上牡牝、芝2400m)は、12万€(約1932万円/1€=161円)で換算)の追加登録料を支払って出走したイギリスのブルーストッキング(牝4歳、父キャメロット)が2番手追走から直線で早めに先頭に立って優勝しました。1馬身1/4差の2着にGⅠヴェルメイユ賞2着から臨んだ地元の3歳牝馬アヴァンチュール。武豊騎手が手綱を取ったアルリファーは11着、日本調教のシンエンペラー(坂井瑠星騎手)は12着に終わりました。

勝ったブルーストッキングは今年6月のプリティボリーS(芝2000m)でGⅠ初制覇を果たし、続くGⅠキングジョージVI世&クイーンエリザベスSは追い込んでゴリアットの2着に好走。その後、8月のGⅠインターナショナルSは中団から伸びを欠いてシティオプトロイの4着でしたが、続いて向かった前走9月のGⅠヴェルメイユ賞(芝2400m)を先行策から押し切って優勝していました。馬主のジャドモントファームは2017、18年に連覇したエネイブル以来の優勝で、凱旋門賞史上最多の7勝目。管理するR.ベケット調教師、騎乗したR.ライアン騎手はともに初制覇です。